

七〇十一年

不安な国家情勢のなか着実に前進

— 堂々たる県内有数の実業学校へ歩を進める

❖ 校歌制定される

誕生を祝し、全校生徒が宮城遥拝式を行つた。

昭和九年の新学期を迎えて、同窓会は校歌を作成し、母校へ寄贈が正式に決定された。

四月二十四日、第一師団司令部武田陸軍少将が本校視察に来校し、同様に、七月一日、文部省上村督学官が来校、十二月五日、近衛歩兵第一聯隊來島中佐が軍事教練査閲を行うなど、十五年戦争期の本校の存在感を偲ぶことができる。

さらに八月八日より四日間にわたり、関東防空練習が実施され、本校に豊岡監視所が設置されたため、昼間の務めは、本校生徒が担当したのである。

秋を迎える十月二十八日、故粕谷義三先生銅像除幕式が行われ、職員生徒全員が参加した。

本校における学習の充実について、農村はもとより、町の諸商業関係者からも注目され、高い評価を得つつ

慌ただしい状況に置かれながら、本来の学習は着実に進められ、五月には五年生が県立茶業研究所において製茶実習を行い、以後、年々実習されるようになつた。

また、十一月、東京の専修大学主催全国商業学校珠算大会に参加した森田義雄が、優等賞を得て、全国に豊実の存在を誇示した。

また、十一月、東京の専修大学主催全国商業学校珠算大会に参加した森田義雄が、優等賞を得て、全国に豊実の存在を誇示した。

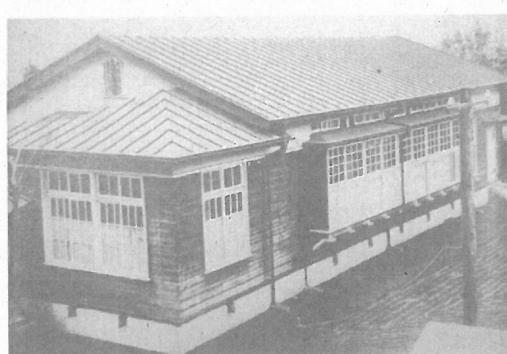
また、十一月、東京の専修大学主催全国商業学校珠算大会に参加した森田義雄が、優等賞を得て、全国に豊実の存在を誇示した。

また、十一月、東京の専修大学主催全国商業学校珠算大会に参加した森田義雄が、優等賞を得て、全国に豊実の存在を誇示した。

また、十一月、東京の専修大学主催全国商業学校珠算大会に参加した森田義雄が、優等賞を得て、全国に豊実の存在を誇示した。

また、十一月、東京の専修大学主催全国商業学校珠算大会に参加した森田義雄が、優等賞を得て、全国に豊実の存在を誇示した。

十二月二十三日、皇太子殿下(平成天皇)の



演武場

❖ 教育活動は順調に
昭和七年五月一日、農業実習用に温室六坪が新築され、暮れには花卉園一反五畝歩を拡張した。
教育活動は順調に展開し、十月、東京の保善商業学校主催全国商業学校珠算大会に参加した四年生森田義雄が、個人賞二等に入賞した。十一月に開催された中等学校連合教練演習統監に来県中の朝香宮が、前年に続き本校を訪れ、記念樹の成育を觀察された。

昭和八年は新学期開始とともに、世界情勢の変動を予感させるような情勢になつた。四月二十九日、本校の朝礼において国際連盟脱退に関する詔書の奉戴式が挙行され、生徒一同、國家の直面した問題に緊張したのである。昭和六年九月十八日、柳条湖事件の発端以来、戦雲の晴れぬ状況が学校にも迫つていたようである(昭和八年五月三十一日停戦協定)。

❖ 校歌制定される

昭和
1955~56
三十三年

創立三十五周年を迎えて

—伝統の校風を深め、さらによく新しい改革を

できごと
昭和30(一九五五)~31(一九五六)年

◆盛りだくさんの三十五周年行事

昭和三十年は創立三十五周年の記念にあたり、同時に図書館建設記念の式典を挙行した。

十一月十七・十九日、記念式典・公開録音放送・同窓会・PTA総会・収穫祭と行事が続き、『三十五周年記念誌』も刊行した。生徒も「豊

高新聞」記念特集として、三十五年記念の座談会や本校のあゆみを特集している。施設では、農産加工室二坪二五が新設され、PTAは

テレビを購入

し、視聴覚教

育の充実にそ

なえた。

この年、全

生徒による校

外特別行事が

あった。十一

月十一日、天

山岳部（昭和32年頃）



皇陛下が埼玉県下産業を視察のため茶業研究所へ御巡幸されたので、職員・全生徒は黒須鍵山通りに出て歓送迎した。

生徒の校内外における活動は引き続き盛んに行われた。

山岳部は愛好会になつていて活動を再開、学校祭では盛大に山岳展を発表。山行も丸山・武甲山・川乗山・三頭山・御前山・有馬山・大菩薩峠など近辺の諸山嶺において技術を鍛え、その成果あつて愛好会より部に昇格した。

本校主催の創立三十五周年記念県下高校弁論大会が講堂において開催され、豊岡町長杯・教育委員会杯をめぐり県下四三校が参加し、春日部高校が優勝した。また、第三回四校対抗弁論大会が所沢高校で開催され、本校が優勝したのである。

珠算部の活躍は伝統を守り健闘した。第九

回埼玉県珠算競技大会兼第九回国民珠算競技大会では団体個人とも二位入賞、全国大会出

（昭和30年）	
1月 1日	トヨタ自動車「クラウン」を発売
2月 1日	PTAでテレビ購入
3月 30日	農産加工室竣工
4月 25日	『広辞苑』初版発行
5月 9日	後楽園遊園地が完成
6月 17日	アメリカにディズニーランド開園
7月 17日	創立三十五周年並びに図書館建設記念式典を挙行
8月 17日	第八回卒業証書授与式
9月 31日	温室竣工
10月 11日	上水道の引き込み施設完成
11月 17日	日活映画「太陽の季節」公開。石原裕次郎俳優デビュー
12月 30日	豊岡町・金子村・官寺村・藤沢村・西武町の一部（旧東金子村）が合併し、武藏町が発足
1月 27日	埼玉県農業クラブ大会を講堂で開催
2月 18日	日本が国際連合に加盟

場権を得た。また第十二回埼玉県珠算競技大会において、小・中・高・一般あわせて四〇〇

四年度 豊高の行事改革

自由とは何かを問い合わせ続けて

❖ 減少する新入生・求められる対策

中学校の生徒数が急減中であつた当時、豊高も生徒定員の減少を余儀なくされ、本年度は全日制・定時制ともに一学級が減らされた。にもかかわらず、私立高校志向の強まり等によつて競合が顕著に現れ、事前取り消しが増加した結果、豊高は欠員補充の事態に立ち至つてしまつた。

生徒募集に危機感を感じた学校側は、原因の分析と次年度以降の生徒募集をさらに積極的に進めることになつた。

❖ 変わる行事、問われる自由

前年度までの行事運営の中で様々な問題が表面化したことを受け、この年、豊高の行事は大きく変化した。

HR発表会は運営体制が大幅に変わり、劇全体にも変化が生じた。特に減点関連の規定

が厳しくなり、中でも、大道具解体に二〇分の制限時間を設け、時間をオーバーした場合には一〇八点が減点されるというルールは、多くのクラスを悩ませた。これは、本番後に気が緩んで解体をスムーズに行わず、後始末の不十分なクラスが多かつたための措置であつた。

また、豊高祭については、ブロック型式というクラス単位での参加形態が導入され、生徒全員が参加することになつた。

従来通りの有志団体もあり、豊高生総出で文化祭をつくりあげる。これは、参加する・しないで差が大きくなつてしまつた文化祭に

対する生徒たちの意識を変えるための変革であつた。

「PTAだより」(第44号)には、この変革に関して、高野宏文化祭実行委員長の言葉が以下のように掲載されている。

い、「豊高らしい」ことができなくなる傾向にある。もつと、生徒一人一人が自覚し、「豊高らしさ」を守つていく必要があると思います。そして豊高をもつと活気のある、すばらしい高校にしていくほししいと思います。

豊高の文化祭は、他の県立高校とちがつて



HR 発表会